

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

<b>施策体系コード</b> 5-3-1		<b>事業名</b> 大通交流拠点再整備構想検討事業		
<b>担当</b> 市民まちづくり局都市計画部都心まちづくり推進室都心まちづくり課		佐々木 Tel211-2692		
<b>全 体 計 画</b>				
<b>事業内容</b>	札幌駅前通と大通の交差点は「都心まちづくり計画」において、「大通交流拠点」として、骨格軸と連動して面的な広がりまちづくりを展開すべき地区として位置づけられており、人びとの多様な交流を支援し、都心内の中心性を象徴的に表現する「サッポロ広場」の形成が求められている。 現在整備を進めている「札幌駅前通地下歩行空間」との連携はもちろんのこと、都心の新たな魅力づくりに向けた空間構成、多様な交流支援機能の確保や地上・地下の空間的連続性の確保など、「サッポロ広場」の形成に向け、関係地権者と連携を図りながら整備検討を進める。		<年度別の事業内容> [19年度]: 広場形成に向けた現状把握と課題整理(導入機能・空間利用・通行者処理など)札幌駅前通公共地下歩道との連携民間開発計画との調整・支援 [20年度]: 広場空間の整備目標設定(機能移転・導入機能・空間構成など)民間開発計画との調整・支援 [21年度]: 整備計画案検討及び作成、整備手法の検討 [22年度]: 整備実施計画作成	
	<b>平成19年度事業内容(決算)</b> 広場形成に向け、庁内関係部局及び民間地権者と共に、現状把握と課題について、検討を進めた。 具体的には、広場の意味・形状・機能・歩行者対策など、今後の方向性について協議を重ね、札幌駅前通公共地下歩道とのスムーズな接続や民間開発計画と調整を図りながら、整備目標の具体的な検討をするための準備を進めた。		<b>平成20年度事業内容(決算)</b> 今後の整備の方向性検討 大通交流拠点まちづくりガイドラインで示す「サッポロ広場」の実現に向け、動線計画検討や現状の課題整理、今後の整備の方向性について、庁内関係部局間で共通認識を構築した。	
<b>事業内容・量・場</b>	<b>平成21年度事業内容(決算)</b> 整備内容、手法の検討 20年度の検討を踏まえ、大通交流拠点に導入すべき機能やしつらえなどについて、具体的な整備の内容、手法等の検討を進め、整備計画案(複数案)として取りまとめた。また、当該整備にまちづくり交付金を導入するために必要となる都市再生整備計画案を検討した。		<b>平成22年度事業内容(予算)</b> 関係部局・関係機関との調整を行いながら、整備計画の庁内合意を図り、施設の基本計画を策定する。 現地調査(支障物件)及び社会資本整備総合交付金を導入するために必要となる社会資本総合整備計画の評価指標の現況値調査を実施する。 市民意向等を踏まえた整備計画とするため、アンケート等の方法により、市民意見を募集する。	
	<b>規 模</b>		<b>件 数 等</b>	

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-3-1			事業名	大通交流拠点再整備構想検討事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
サッポロ広場形成計画の策定	検討	検討	検討	検討	策定	策定	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 市民意向等を踏まえた整備計画とするため、アンケート等の方法により、市民意見を募集する予定。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力](該当なし) [人材協力](該当なし) [情報協力](該当なし) [その他の協力]「大通交流拠点まちづくりガイドライン」を地区の地権者とともに官民協働で策定し、その実現に向けた連携体制を取っている。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>都心の中心性を象徴的に表現する「サッポロ広場」の整備の意義や重要性について、関係部局間で共通認識を確立し、整備計画案(複数案)を取りまとめたことにより、関係部局間での調整が整った。これらの取り組みの中で、整備に向けた課題を明らかにすることができたことから、これらの課題に対する協議・調整を進めることで、整備計画の具体化を図ることができる見込みである。</p>			<p>整備計画案には未だ解決しなければならない課題が存在することから、そのそれぞれについて、関係機関等との協議・調整を進める必要がある。</p> <p>都心まちづくり計画及び大通交流拠点まちづくりガイドラインに示される「サッポロ広場」の実現に向けては、本整備事業のみならず、地区の地権者における建替事業、再開発事業等と連携し、官民協働で一体的な空間形成に取り組む必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>本整備事業を確実に進め、都心部の連続的な地下ネットワークの実現によるにぎわい創出・回遊性向上に努めるとともに、地区の地権者が実施する建替事業、再開発事業等において、「サッポロ広場」として一体的な空間形成が図られるよう、調整を進める。</p>							

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-3-1		事業名	大通交流拠点再整備構想検討事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	0	0	6,000	4,000	10,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	3,000	2,000	5,000	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の財源	0	0	0	0	0	
予算	事業費	0	0	0	8,300	8,300	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	4,000	4,000	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の財源	0	0	0	1,000	1,000	
実績	事業費	0	2,993	4,410	-	7,403	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市の債	0	0	0		0	
	その他の財源	0	2,993	4,410		7,403	
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)				157.0%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]大通交流拠点の整備の方向性の検討が必要になったことから、都心再生協働事業費(1,493千円)、札幌駅前通地下歩行空間活用推進費(1,500千円)を活用した。							
[21年度]大通交流拠点に係る都市再生整備計画案の策定のため、創世1.1.1区事業化検討費(509千円)、都心再生協働事業費(1,500千円)、路面電車活用方針検討調査費(2,000千円)、地下歩行空間検討調査費(401千円)を活用した。							
[22年度]都心部の連続的な地下ネットワークの実現のため、駅前通地下歩行空間の供用開始(23年度)や、地下街のリニューアル(23、24年度)に合わせる必要があることから、22年度に施設の基本計画を策定することとした。							